

閉校記念誌



有賀












ありがとう ～みらいにつなぐ栗原市閉校記念誌～

2013.03

栗原市立有賀小学校・有賀幼稚園



| | | | | |
|---|-------------------------------|-------|----|--|
|  あいさつ | | | | |
| 有賀小学校の閉校、有賀幼稚園の閉園に寄せて | 栗原市長 | 佐藤 勇 | 1 | |
| 有賀小学校の閉校、有賀幼稚園の閉園に寄せて | 栗原市教育委員会 教育長 | 亀井 芳光 | 2 | |
| 閉園・閉校に寄せて | 栗原市立有賀小学校 校長 | 遊佐 典義 | 3 | |
| 未来の子供たちへ | 栗原市立有賀小学校 父母教師会会長 | 菅原 久樹 | 3 | |
| 閉校・閉園によせて | 有賀地区コミュニティ推進協議会会長 閉校記念事業実行委員長 | 近藤 宗志 | 4 | |
|  学校の概要 | | | | |
| 学区について | | | 5 | |
| 校舎のようす | | | 5 | |
|  校歌・校旗・校章 | | | 6 | |
|  歴代校長 | | | 7 | |
|  歴代校長・元有賀小学校歴代校長・歴代父母教師会会長 | | | 8 | |
|  校名変遷図 | 栗原市立有賀小学校の変遷 | | 9 | |
|  児童数の推移 | | | 10 | |
|  学校の沿革・寄稿文 | | | | |
| 沿革（明治6年～昭和5年） | | | 11 | |
| 懐しい思い出二題 | | 岩渕 得三 | 11 | |
| 昭和5年小学校卒業 | | 菅原 幸夫 | 12 | |
| 沿革（昭和10年～昭和24年） | | | 13 | |
| 旧有賀小学校 四季の思い出 | 支援ボランティア | 金野 秋子 | 13 | |
| 在学当時の思い出 | 昭和19年度卒業 | 金野 刃吉 | 14 | |
| 私の小学生の思い出 | 第15代父母教師会会長 | 菅原 博 | 15 | |
| 夏の日に思う | 第17代父母教師会会長 | 小野寺廣也 | 16 | |
| 沿革（昭和29年～昭和36年） | | | 17 | |
| 有賀小学校の思い出・昭和26年入学 | 区長 | 佐藤 幸雄 | 17 | |
| 有賀小学校の思い出・学校がなくなる | 昭和34年度卒業 | 金城 祐子 | 18 | |
| 沿革（昭和37年～昭和47年） | | | 19 | |
| さようならに感謝を込めて | 昭和40年度卒業 | 菅原 清子 | 19 | |
| 有賀小学校の思い出 | 昭和44年度卒業 | 金野 陽子 | 20 | |
| 沿革（昭和48年～昭和52年） | | | 21 | |
| 有賀スポーツ少年団（後援会） | 第22代父母教師会会長 スポ少名誉顧問 | 岩渕 敬一 | 21 | |
| 感謝 | 第30代父母教師会会長 昭和50年度卒業 | 鈴木 洋一 | 22 | |
| 小さな学校大好き | 旧職員 | 清原 郁子 | 23 | |
| 分校での思い出 | 昭和56年度卒業 | 近藤 道代 | 24 | |
| 沿革（昭和53年～昭和56年） | | | 25 | |
| 有賀小学校の思い出 | 昭和54年度卒業 | 新沼 弘己 | 25 | |
| 有賀小学校の思い出 | 昭和55年度卒業 | 小野寺繁喜 | 26 | |
| 沿革（昭和57年～昭和59年） | | | 27 | |
| 閉校 そして 新たに | 第18代父母教師会会長 | 高橋 義雄 | 27 | |
| 当時の子供達に感謝 | 第21代父母教師会会長 | 鈴木 則道 | 28 | |
| 沿革（昭和61年～平成2年） | | | 29 | |
| スタートは有賀小学校 | 昭和63年度卒業 | 国井 美和 | 29 | |
| 有賀小学校と私 | 支援ボランティア | 鈴木 正美 | 30 | |
| 沿革（平成3年～平成8年） | | | 31 | |
| 有賀小学校の思い出 | 第23代父母教師会会長 | 岩渕 幸夫 | 31 | |
| 有賀小学校の思い出 | 第26代父母教師会会長 | 小野 大介 | 32 | |
| 沿革（平成9年～平成13年） | | | 33 | |
| 惜別 | 第36代校長 | 菅野 正紀 | 33 | |
| 有賀小学校（スポーツ少年団）の思い出 | スポ少指導者 | 熊谷 武浩 | 34 | |
| 沿革（平成15年～平成18年） | | | 35 | |
| 有賀小学校での思い出 | 平成16年度卒業 | 熊谷美穂子 | 35 | |
| Memory（メモリー） | 支援ボランティア | 和久 弘一 | 36 | |
| 沿革（平成19年～平成21年） | | | 37 | |
| 夢いっぱい有賀小学校 | 第40代校長 | 鈴木 安子 | 37 | |
| 子ども達とのふれあい | 支援ボランティア | 佐藤 友子 | 38 | |
| 沿革（平成22年～平成24年） | | | 39 | |
| いいあしたへ | 支援ボランティア | 二階堂 實 | 39 | |
| 小学校の思い出 | 平成20年度卒業 | 佐藤 史弥 | 40 | |
| 思い出の有賀小学校 | 平成22年度卒業 | 金野 永 | 41 | |
|  編集後記・閉校記念事業組織図 | | | 42 | |



有賀小学校の閉校、有賀幼稚園の閉園に寄せて

栗原市長 佐藤 勇

秀峰栗駒山の分水嶺から多くの河川が貫流し金成耕土を形成する市内有数の稲作地帯に位置した山紫水明の有賀の地で、子どもたちに多くの学びを与えてきた有賀小学校並びに有賀幼稚園が閉校・閉園するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

明治6年に「安養寺」を仮校舎として開校して以来、140年にわたる長い歴史をもつ有賀小学校並びに昭和44年開園の有賀幼稚園は、地域住民の方々の学校教育に対する御理解、御協力のもと地域の温かい目に守られ、健全な児童育成の伝統を築き上げてこられました。

恵まれた地域環境の中、学校及びPTAまた児童個人にわたり幅広い分野において多くの優良受賞をされており、多くの優れた人材を世に送り出し、県内外におきまして、幅広く御活躍されておりますことは、地域皆様の長年にわたる温かい御支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。また、歴代の校長先生をはじめ、教職員、関係者の皆様の並々ならぬ御尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、長い歴史のある有賀小学校並びに有賀幼稚園では、保護者をはじめ地域の方々の学校教育に対する関心が高く、学校行事には地域を挙げて参加されるなど、これまで地域と学校との確かな信頼関係を築いてこられました。

このような信頼関係の背景には、学校側が地域に対し、基本方針や考え方、校内の様子などを知っていただくため、学校要覧「有賀小スクールプラン」や「学校だより」を配布され、より学校を身近なものとし、地域におきましては、有賀地区コミュニティ推進協議会や諸団体との連携が密に行われ、常に地域と一体となって子どもたちを育てるといった一体感が醸成されてきました。

この環境により、子どもたちは経験豊かな人々との関わりから得た学びや体験活動の成果、さらには将来の夢や目標につなげるため、興味を持ったことへの追求心の向上など、自身の基盤となる「生きる力」が養われてきたところであります。

また、健康推進への取り組みも顕著であり、異学年交流を重視した縦割りごとに取り組むリレーをはじめとする様々な運動と、食育を通して「バランスのとれた食事の大切さ」の理解を進め、保護者と協力して正しい食習慣や規則正しい生活習慣の形成に努めてこられましたことは、市内においても高い評価を得てきたところであります。

このように歴史と伝統ある有賀小学校並びに有賀幼稚園が、今日の社会的な問題である少子・高齢化の傾向による児童・園児の減少などの背景から、栗原市においても学校の再編が避けられず、本年3月31日をもって校史・園史を閉じることとなりましたことは、非常に残念でなりません。これまで有賀小学校並びに有賀幼稚園を巣立った皆様にとって、母校の閉校・閉園は耐え難い寂しさであり、また、地域の皆様の愛惜の念も深いものがあると拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ有賀の歴史と伝統が受け継がれていくようお願いいたします。

今後、「学府くりはら」の実現に向けて、教師と子どもたちがしっかりと向き合い、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる教育環境づくりを目指すとともに、有賀小学校並びに有賀幼稚園が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げます。閉校記念誌発刊のあいさつといたします。



安養寺



有賀小学校の閉校、有賀幼稚園の閉園に寄せて

栗原市教育委員会
教育長 亀井 芳光

有賀小学校は、私にとって昭和57年から3年間勤務させていただいた思い出多い学校であります。当時は現在のように校庭が広く拡張されておらず、また、幼稚園も学校内の一教室を使っていたと記憶しています。明るく元気があり、何事にも活発に参加する子どもたちが多く、様々な活動が行われていました。学習はもちろんですが、スポーツ活動が盛んでした。中でも体力向上や調整力の育成に「なわとび」を取り入れ、検定制度を設け、全校児童が一生懸命練習をしたり、お互い教え合ったりしていた姿が今でも目に浮かんできます。

また、PTA活動も活発で、学校の行事には進んで協力していただいたことも忘れられません。特に、スポーツ少年団活動に積極的で、地域の指導者の方々が率先して指導にあたり、野球や陸上競技にすばらしい成績を残した時期でもありました。現在も続いている地区コミュニティのまともりは、有賀地区の皆様が脈々と培ってきた地区の心であり姿であります。「学校は地域に浮かぶ船である」と言われるように、まさしく有賀小学校は地域文化の振興や交流活動の核として、地域に根ざしてきたことを忘れることはできません。私も多くのことを学ばせていただいたことに感謝申し上げます。

しかしながら、児童数が著しく減少し、今後も減少傾向が続く現状を踏まえ、また、急激に変化する時代に生きる子どもたちの将来を考えると、学校再編は避けて通ることはできません。歴史と伝統を受け継がれてきた学校が地域から消えるということは、地域の皆様や多くの卒業生にとって、やりきれない寂しさを覚えるのは当然のことと思います。

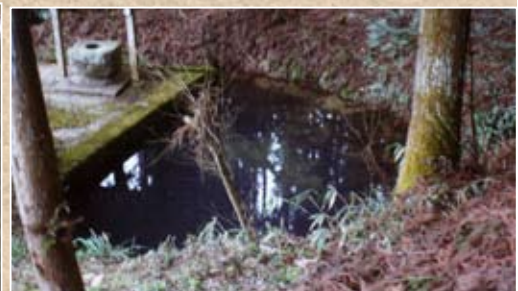
そのように地域にとっても、私にとっても思い出多い有賀小学校は平成25年4月、若柳小学校・大目小学校・大岡小学校・畑岡小学校の5校で再編し、新生「若柳小学校」として現在の若柳小学校校舎のもとでスタートすることになりました。再編にあたり、ご理解とご協力をいただきました有賀地区の皆様にご心より感謝申し上げます。

再編後は、子どもたちも地区の皆様もこれまで脈々と受け継がれてきた有賀小学校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、新しい出会いを喜び、共に学び、励ましあいながら、新しい伝統を築き上げ、「地域とともに歩む 新しい学校」の創造に向けて取り組んでいってくれることを信じてやみません。その実現のためには、地域・家庭・学校・教育委員会はじめ関係機関との連携が大切であります。新たに仲間となる5つの小学校の子どもたち、保護者、地域の皆様との交流を深め、「再編してよかった」と語り継がれる新しい学校を創り上げていただきたいと思います。

結びに、閉校にあたり、これまで永きにわたり有賀小学校及び有賀幼稚園を温かく見守り、支えていただきました地域の皆様にご心より敬意と感謝を申し上げまして、閉校記念誌に寄せる言葉といたします。



聖徳太子堂（若柳有賀字太子）



聖徳太子堂
御手洗湧水泉



聖徳太子像
奉賛歌
(御賀八幡神社)



閉園・閉校に寄せて

栗原市立有賀小学校
校長 遊佐 典義

純朴で人情味豊かな有賀の方々の「心の母校」である有賀幼稚園・有賀小学校の閉園・閉校にあたり、惜別の念、やる方ないものがあります。

昭和44年幼稚園開園、明治6年小学校開校以来、44年及び140年の長きにわたり、風雪烈日を超えて多くの有為な人材を輩出し続け、文化の中心、心の拠りどころとして地域の方々に愛され見守り続けていただいた本園・本校は、有賀小学校というよりは有賀の「おらほの学校」であったと言えます。

有賀小学校では、「地域に学び、地域と共に歩む学校」をスローガンに、地域の力が学校の教育の質を向上させ、学校への支援を通して、地域の教育力が向上すれば、学校の教育力がさらにパワーアップするものと考え、そうした方々の力をお借りして教育活動を推進してきました。

また、「有賀地区コミュニティ推進協議会」の活動が非常に活発で、常に学校を支えてくださいました。合同運動会では、学校、幼稚園、地域の皆さんと一体となったまさしく有賀ならではの運動会でした。子供の姿を地域の皆さんに見て感じてもらう絶好の機会でした。

さて、在職して2年、私は有賀小学校には素晴らしい三つの「宝」があると思います。

まず一つは、ふるさとを愛し、学校を愛する心によって守られてきた素晴らしい教育環境です。

二つ目は、地域の方々と教職員の子供たちに注がれた深い深い愛情です。

三つ目は、明るく素直で、何事にも懸命に取り組む輝く瞳をもった子供たちです。

子供たちは、この三つの「至宝」を携えて新しい学校でも活躍してくれるものと確信しています。

結びになりましたが、閉校記念事業の推進のためにご支援賜りました市当局、閉校記念事業実行委員の皆様、保護者、地域の皆様に衷心より深く感謝申し上げます。

未来の子供たちへ

栗原市立有賀小学校
父母教師会会長 菅原 久樹

今春に長い歴史を持つ有賀小学校が学校再編に伴い閉校となります。少子化時代の波がここ有賀にも来たのだなあと感じています。

私は平成3年度の卒業生で、現在の校舎で学びました。今回の執筆のため、当時のアルバムを改めて見てみました。当時は全校生徒が160人くらいだと記憶しています。私のクラスは36人でみんなとてもよい仲間でした。入学式から始まり、運動会、遠足、水泳大会、収穫祭、なわとび大会、学芸会、各種委員会での活動、そして卒業式。こうしてアルバムを見ていると当時の記憶がいろいろと蘇ってきます。卒業時には未来への希望と有賀小学校の末永い繁栄を願って巣立っていきました。私だけではなく本校の卒業生全員が同じ思いを抱いていたと思います。しかしながらその願いも叶わず今年度で有賀小学校は閉校となります。時代の流れとはいえ、本当に残念で仕方ありません。

現在は少子化時代といわれ、また、地元に残る若者も大変少なくなっています。少子化に伴う問題は地域全体を衰退化してしまいます。ここで私が強く思うことは、不景気に負けず沢山の子孫を残し、そして若い世代が地元地域に残るような社会づくりを国や行政ばかりに頼るのではなく、地域単位で真剣に取り組み、少しずつ成果を挙げていくように日々努力しなければならないということです。これからの我々の使命であると考えております。

最後に未来の子供たちへお願いがあります。もしも、将来において、景気がよくなり、子供の数が増加し、またこの地域にも小学校が必要になるときは、ぜひまた「有賀小学校」を復活させてください。お願いします。その時私がまだ存命していれば、当時の有賀小学校の思い出などをいろいろと聞かせてあげたいと思います。

最後になりましたが、長年有賀の子供たちと共に歩んできた有賀小学校に深く感謝し、また、有賀の子供たちの繁栄と地域の皆様の幸せを願いまして私からの挨拶といたします。



閉校・閉園によせて

有賀地区コミュニティ推進協議会会長
閉校記念事業実行委員長 近藤 宗志

本校は明治6年の創立以来、幾度かの校名変更や、統合・独立を経て、平成17年の大合併により栗原市立有賀小学校になりました。この間、永きにわたり地域の教育は勿論文化の中心として、又、地域の心の拠り所として数多くの人材を送り出してきました。しかしながら少子高齢化という時代の流れには勝てず、この度140年の歴史と伝統に幕を閉じ、平成25年4月より新生・若柳小学校としてスタートすることになりました。

振り返れば、昭和54年には、学校の敷地内に有賀公民館兼コミュニティセンターが建設され、これまで以上に学校と地域との一体感が深まり、これを機に昭和55年には、今年で31回になりました「地区民総参加の大運動会」のスタート、翌56年には有賀地区の伝統工芸「すげ笠作りで地域の祖父母との交流事業」「夏休み合同作品展」又、独居老人宅への「手作りカレンダーの配布」や「郷土芸能・武鎗神楽の伝承」「ホタルマップを作成し地区内全戸に配布」等など、小規模校ならではの学校と地域の一体感ある教育環境が続いて参りました。

平成21年、父母教師会が実施した学校再編に対するアンケート調査でも6割の地区民が「有小存続」との結果でしたが、その後「父兄の合意」ということになり、地域としても苦渋の決断をせざるを得ませんでした。平成の大合併から10年も経過しない今、学校がこの地域から無くなるとは誰が予想したでしょうか。子供達の元気な姿や歓声はいつも地域に活力を与えてくれました。地域に住む者として大きな灯が消えていくような気がしてなりません。今回、実行委員長として閉校に関わることになった今は複雑な気持ちではありますが、新たな出発に希望の目を向けなければならないと思っています。

この度、皆様方には有賀小学校の歴史と重みを、末永く記憶に留めるための「閉校記念事業」に対し、ご賛同・ご協力を戴き心より感謝を申し上げますと共に、新天地での「有賀っ子」の大いなる成長と活躍をご祈念申し上げ、発刊の挨拶といたします。



幼稚園舎全景

学校の概要

学区について

本校は、栗原市若柳地区の中心部より北西に約5km離れたところにある。学区は、栗原市の東北端に位置し、北や東は岩手県一関市花泉、西は市内金成地区、南は若柳地区大岡に接している。東西約5km、南北約4km、面積約17km²の農村地帯である。金成耕土を一望できる丘陵地帯にある当学区は、豊かな自然に恵まれているとともに、縄文時代からの遺跡や由緒ある館跡、神社仏閣等も多い。

児童の家庭のほとんどが二世代ないし三世代同居の家族構成である。共稼ぎ家庭が多く、農業だけで生計を立てている家庭は少なくなっている。

保護者の教育に対する関心は高く、父母教師会活動も活発で協力的である。地区コミュニティとの共催行事もあり、学校と地域のつながりも深い。また、地域の次代を担う子どもを育てる場として、保護者や地域の人々の学校教育に対する関心と期待は大きいものがある。



校舎のようす

学校平面図

校舎配置図



有賀小学校 校歌

白鳥 省吾 作詞
海老名仁平 作曲

1. は るのくりこま やまのゆき ふ もとはさ ーくら
は なざかり あ きはいねのほ そよそよと
な ーかえな つがわ きよきさと きぼ う ーかがや
く ーま な ーびや よ ー

有賀小学校 校歌

作詞 白鳥 省吾
作曲 海老名 仁平

一 春の栗駒 山の雪

麓は桜 花ざかり

秋は稲の穂 そよそよと

中江 夏川 清き里

希望輝く 学び舎よ

二 広い耕土は 豊かにて

われら仲良く 元気よく

毎日励む 学業の

前途 楽しく 洋々と

いつも伸びゆく 力あり

三 世界の中の 日本の

正しき道を 見きわめて

明るい文化 つくるべき

その 出発の 学園の

有賀小学 誉あれ

校章の由来

昭和53年、現在の有賀小学校校舎が落成したとき、この校章も制定されました。清原郁子先生のデザインによるものです。当時の7地区（三田鳥、田子谷、浜井場、上在、町館1、町館2、下在）が、アルファベットの「A」を圖案化した形で表現されています（Aは、A rigaのAです）。七つの「A」が中心に集まり、校章を形づくっています。七つの地区が力を今わせて有賀小学校を作っていこうという、当時の人々の願いがこめられています。





歴代校長

| | | | |
|--------|--------------------|--------|----|
| 初代 | 明治 6 年度～明治 12 年度頃 | 麓 穆 | 校長 |
| 第 2 代 | 明治 12 年度頃～明治 17 年度 | 横田 信 | 校長 |
| 第 3 代 | 明治 17 年度～不明 | 鈴木清三郎 | 校長 |
| 第 4 代 | 不明 ～明治 22 年度 | 水野 官作 | 校長 |
| 第 5 代 | 明治 23 年度～明治 28 年度 | 武内 茂吉 | 校長 |
| 第 6 代 | 明治 28 年度～明治 31 年度 | 鈴木清三郎 | 校長 |
| 第 7 代 | 明治 31 年度～明治 35 年度 | 武田 用藏 | 校長 |
| 第 8 代 | 明治 35 年度～大正 5 年度 | 遠藤 良七 | 校長 |
| 第 9 代 | 大正 5 年度～大正 7 年度 | 細川 由己 | 校長 |
| 第 10 代 | 大正 8 年度～大正 11 年度 | 清水治右衛門 | 校長 |
| 第 11 代 | 大正 11 年度～大正 15 年度 | 門傳 勝衛 | 校長 |
| 第 12 代 | 大正 15 年度～昭和 2 年度 | 佐々城 金 | 校長 |
| 第 13 代 | 昭和 3 年度～昭和 9 年度 | 谷 民慈 | 校長 |
| 第 14 代 | 昭和 9 年度～昭和 12 年度 | 星野 達郎 | 校長 |
| 第 15 代 | 昭和 12 年度～昭和 14 年度 | 高橋 三郎 | 校長 |
| 第 16 代 | 昭和 15 年度～昭和 18 年度 | 大坂 譽雄 | 校長 |
| 第 17 代 | 昭和 19 年度～昭和 20 年度 | 菅原忠三郎 | 校長 |
| 第 18 代 | 昭和 21 年度 | 松井 申二 | 校長 |
| 第 19 代 | 昭和 22 年度～昭和 24 年度 | 伊藤 亀市 | 校長 |
| 第 20 代 | 昭和 25 年度～昭和 26 年度 | 藤巻 省吾 | 校長 |
| 第 21 代 | 昭和 27 年度～昭和 32 年度 | 三浦 義勇 | 校長 |
| 第 22 代 | 昭和 33 年度～昭和 40 年度 | 千田 清治 | 校長 |
| 第 23 代 | 昭和 41 年度～昭和 42 年度 | 佐藤 英男 | 校長 |
| 第 24 代 | 昭和 43 年度～昭和 44 年度 | 伊藤 博 | 校長 |
| 第 25 代 | 昭和 45 年度～昭和 46 年度 | 高橋 幸治 | 校長 |
| 第 26 代 | 昭和 47 年度～昭和 48 年度 | 葛城 教信 | 校長 |
| 第 27 代 | 昭和 49 年度～昭和 50 年度 | 菊地 清 | 校長 |
| 第 28 代 | 昭和 51 年度～昭和 54 年度 | 高橋 末男 | 校長 |
| 第 29 代 | 昭和 55 年度～昭和 57 年度 | 小野寺喜一郎 | 校長 |
| 第 30 代 | 昭和 58 年度～昭和 59 年度 | 阿部 静雄 | 校長 |
| 第 31 代 | 昭和 60 年度～昭和 62 年度 | 二階 邦男 | 校長 |
| 第 32 代 | 昭和 63 年度～平成 元年度 | 二階堂 本 | 校長 |
| 第 33 代 | 平成 2 年度～平成 3 年度 | 伊藤 暢雄 | 校長 |
| 第 34 代 | 平成 4 年度～平成 6 年度 | 若生 英夫 | 校長 |
| 第 35 代 | 平成 7 年度～平成 8 年度 | 菅原 紀内 | 校長 |





歴代校長・元有賀小学校歴代校長・歴代父母教師会会長

| | | | |
|------|---------------|-------|----|
| 第36代 | 平成9年度～平成10年度 | 菅野 正紀 | 校長 |
| 第37代 | 平成11年度～平成13年度 | 菅原 邦子 | 校長 |
| 第38代 | 平成14年度～平成15年度 | 石川 安廣 | 校長 |
| 第39代 | 平成16年度～平成18年度 | 岩渕 和男 | 校長 |
| 第40代 | 平成19年度～平成22年度 | 鈴木 安子 | 校長 |
| 第41代 | 平成23年度～平成24年度 | 遊佐 典義 | 校長 |

元有賀小学校（浜井場分校前身）歴代校長

| | | | | | | | |
|-----|---------------|-------|----|------|---------------|-------|----|
| 初代 | 明治6年度～明治14年度 | 菅原 亀治 | 校長 | 第9代 | 昭和2年度～昭和6年度 | 西大条孝平 | 校長 |
| 第2代 | 明治15年度～明治16年度 | 大場 多吉 | 校長 | 第10代 | 昭和7年度～昭和9年度 | 千葉 源太 | 校長 |
| 第3代 | 明治17年度～明治19年度 | 羽川大六郎 | 校長 | 第11代 | 昭和10年度～昭和11年度 | 末長 有 | 校長 |
| 第4代 | 明治20年度～不明 | 武内 茂吉 | 校長 | 第12代 | 昭和12年度～昭和13年度 | 富村 準之 | 校長 |
| 第5代 | 大正元年度～大正9年度 | 鈴木清三郎 | 校長 | 第13代 | 昭和14年度 | 石井 恒雄 | 校長 |
| 第6代 | 大正10年度～大正11年度 | 伊藤 文吉 | 校長 | 第14代 | 昭和15年度 | 渋谷今朝治 | 校長 |
| 第7代 | 大正12年度～大正15年度 | 庄子 吉治 | 校長 | 第15代 | 昭和16年度 | 高橋 利勝 | 校長 |
| 第8代 | 昭和元年度 | 三塚 正 | 校長 | | | | |

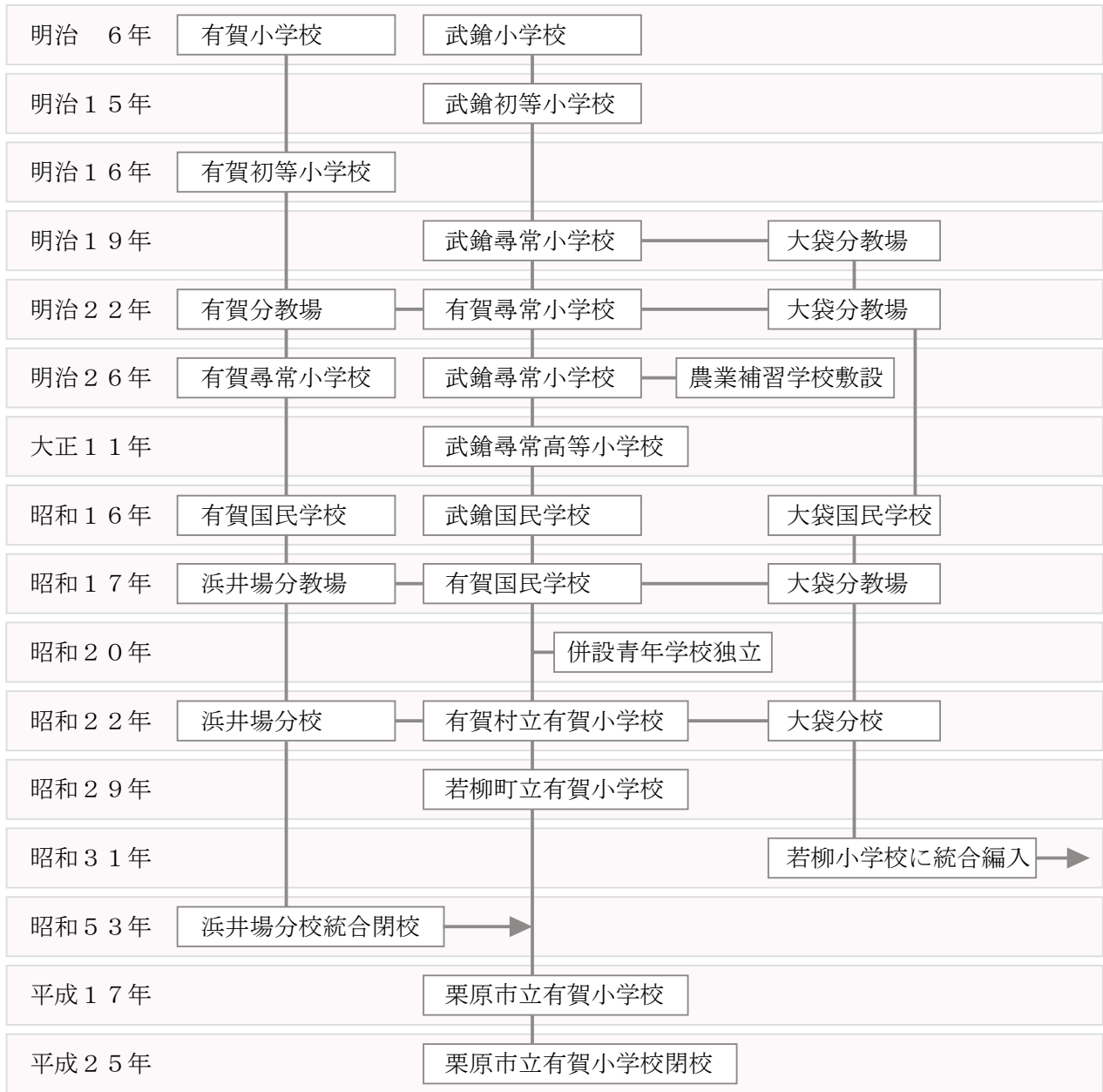
歴代父母教師会会長

| | | | | | | | |
|------|---------------|-------|----|------|---------------|-------|----|
| 初代 | 昭和22年度 | 佐藤 泰助 | 会長 | 第18代 | 昭和54年度～昭和55年度 | 高橋 義雄 | 会長 |
| 第2代 | 昭和23年度～昭和24年度 | 千葉 勇 | 会長 | 第19代 | 昭和56年度～昭和57年度 | 千葉 毅 | 会長 |
| 第3代 | 昭和25年度 | 菅原寛之丞 | 会長 | 第20代 | 昭和58年度～昭和60年度 | 近藤 宗志 | 会長 |
| 第4代 | 昭和26年度～昭和29年度 | 熊谷 養藏 | 会長 | 第21代 | 昭和61年度～昭和63年度 | 鈴木 則道 | 会長 |
| 第5代 | 昭和30年度～昭和33年度 | 菅原寛之丞 | 会長 | 第22代 | 平成元年度～平成2年度 | 岩渕 敬一 | 会長 |
| 第6代 | 昭和34年度 | 高橋 大二 | 会長 | 第23代 | 平成3年度 | 岩渕 幸夫 | 会長 |
| 第7代 | 昭和35.4～35.8 | 佐々木東一 | 会長 | 第24代 | 平成4年度～平成5年度 | 多田 吉男 | 会長 |
| 第8代 | 昭和35.9～36.3 | 佐々木 勇 | 会長 | 第25代 | 平成6年度～平成7年度 | 柴山 春喜 | 会長 |
| 第9代 | 昭和36年度～昭和37年度 | 三野宮新治 | 会長 | 第26代 | 平成8年度～平成10年度 | 小野 大介 | 会長 |
| 第10代 | 昭和38年度 | 岩渕 健藏 | 会長 | 第27代 | 平成11年度 | 金野 俊文 | 会長 |
| 第11代 | 昭和39年度 | 小野寺 猛 | 会長 | 第28代 | 平成12年度～平成13年度 | 菅原 義博 | 会長 |
| 第12代 | 昭和40年度 | 高橋 芳郎 | 会長 | 第29代 | 平成14年度 | 鈴木 芳紀 | 会長 |
| 第13代 | 昭和41年度～昭和43年度 | 熊谷 磯夫 | 会長 | 第30代 | 平成15年度～平成17年度 | 鈴木 洋一 | 会長 |
| 第14代 | 昭和44年度～昭和45年度 | 高橋 一 | 会長 | 第31代 | 平成18年度～平成20年度 | 三浦 健 | 会長 |
| 第15代 | 昭和46年度～昭和48年度 | 菅原 博 | 会長 | 第32代 | 平成21年度～平成22年度 | 佐藤 豊 | 会長 |
| 第16代 | 昭和49年度～昭和52年度 | 多田 善孝 | 会長 | 第33代 | 平成23年度 | 菅原 学 | 会長 |
| 第17代 | 昭和53年度 | 小野寺廣也 | 会長 | 第34代 | 平成24年度 | 菅原 久樹 | 会長 |



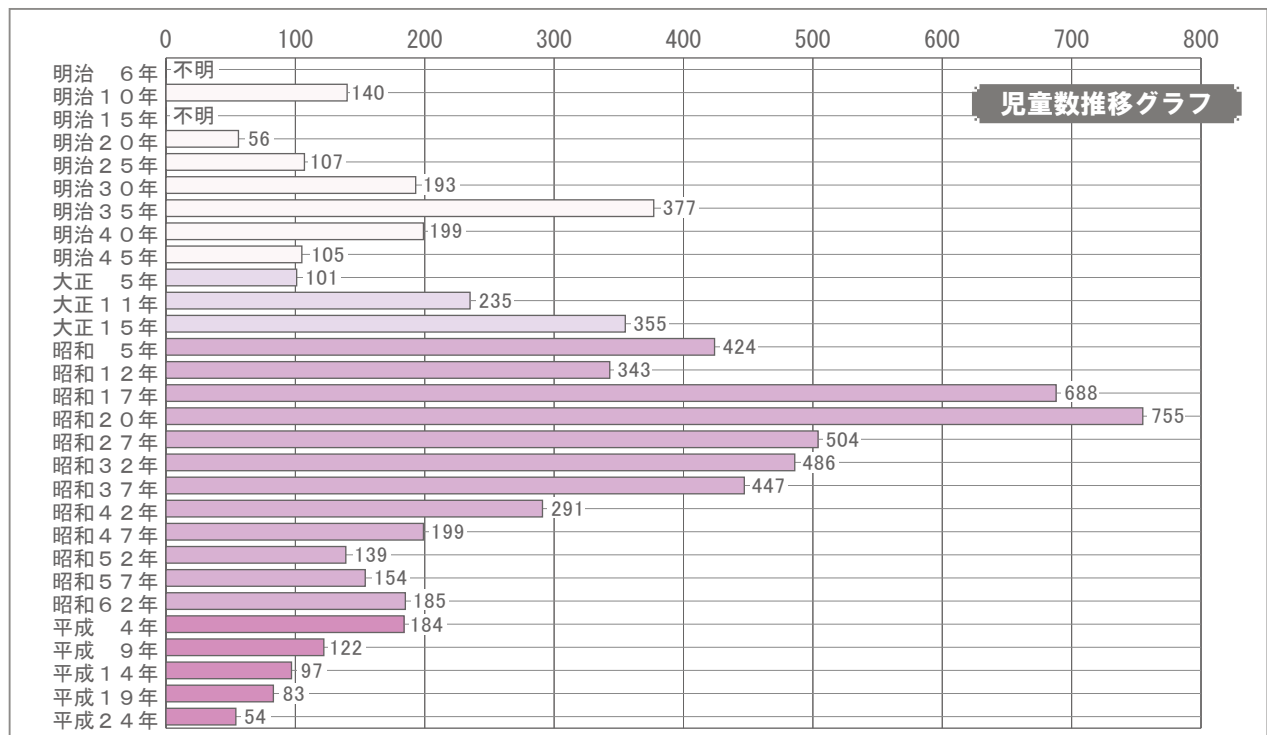
校名変遷図

栗原市立有賀小学校の変遷





| 年号 | 児童数 | 学校名 | 備考 |
|---------|-----|-----------|------------------------|
| 明治 6 年 | 不明 | 武鎗小学校 | |
| 明治 10 年 | 140 | 武鎗小学校 | |
| 明治 15 年 | 不明 | 武鎗初等小学校 | |
| 明治 20 年 | 56 | 武鎗尋常小学校 | |
| 明治 25 年 | 107 | 有賀尋常小学校 | |
| 明治 30 年 | 193 | 武鎗尋常小学校 | |
| 明治 35 年 | 377 | 武鎗尋常小学校 | |
| 明治 40 年 | 199 | 武鎗尋常小学校 | |
| 明治 45 年 | 105 | 武鎗尋常小学校 | |
| 大正 5 年 | 101 | 武鎗尋常小学校 | |
| 大正 11 年 | 235 | 武鎗尋常高等小学校 | |
| 大正 15 年 | 355 | 武鎗尋常高等小学校 | |
| 昭和 5 年 | 424 | 武鎗尋常高等小学校 | |
| 昭和 12 年 | 343 | 武鎗尋常高等小学校 | |
| 昭和 17 年 | 688 | 有賀国民学校 | 昭和 17 年 武鎗有賀大袋の三国民学校統合 |
| 昭和 20 年 | 755 | 有賀国民学校 | |
| 昭和 27 年 | 504 | 有賀村立有賀小学校 | 昭和 22 年 校名変更 |
| 昭和 32 年 | 486 | 若柳町立有賀小学校 | 昭和 30 年 大袋分校若柳小へ統合 |
| 昭和 37 年 | 447 | 若柳町立有賀小学校 | |
| 昭和 42 年 | 291 | 若柳町立有賀小学校 | |
| 昭和 47 年 | 199 | 若柳町立有賀小学校 | |
| 昭和 52 年 | 139 | 若柳町立有賀小学校 | 昭和 52 年 浜井場分校閉校 |
| 昭和 57 年 | 154 | 若柳町立有賀小学校 | |
| 昭和 62 年 | 185 | 若柳町立有賀小学校 | |
| 平成 4 年 | 184 | 若柳町立有賀小学校 | |
| 平成 9 年 | 122 | 若柳町立有賀小学校 | |
| 平成 14 年 | 97 | 若柳町立有賀小学校 | |
| 平成 19 年 | 83 | 栗原市立有賀小学校 | 平成 17 年 栗原市誕生 |
| 平成 24 年 | 54 | 栗原市立有賀小学校 | |



沿革 (明治6年～昭和5年)

| 年号 | 主な沿革 |
|-------|---|
| 明治 6 | 民家及び寺院を仮校舎として有賀小学校を開校する 安養寺を仮校舎として武鎗小学校を開校する |
| 明治 15 | 町館87番地(岩淵太兵衛氏所有地)に校舎を新築し、武鎗初等小学校と称す |
| 明治 16 | 官庭寺境内を借用し、校舎を新築し、有賀初等小学校と称す |
| 明治 19 | 武鎗尋常小学校と称し、大袋分教場を置く |
| 明治 22 | 有賀尋常小学校と称し、有賀、大袋に分教場を置く |
| 明治 26 | 学制の改正により、武鎗尋常小学校と称す 有賀分教場は独立し、有賀尋常小学校と称す |
| 明治 33 | 小学校義務4年制確立 |
| 明治 35 | 児童数増加により教室狭隘のため、校舎増築 |
| 明治 40 | 小学校義務教育年限6年となる。高等科2年から3年とする |
| 大正 10 | 武鎗実業補習学校学則を変更し、有賀村農業補習学校と改称し、有賀・大袋に分教場を置く |
| 大正 11 | 高等科併置の認可を得る 有賀尋常高等小学校東2教室増築、小使室増築 尋常小学算術書使用始め |
| 昭和 5 | 4教室増築、校庭拡張 |

懐かしい思い出三題

岩淵 得三 (故人)

その一 私たちを学校に入れてください。

七歳の稚児二人。一人が自分で他は幼な友、故鈴木康夫君、4月某日(明治34年春)石盤 ペンフキモノ 小さいおにぎりを入れたカバンを肩にかけ意気揚々と学校の玄関から二階の職員室に到り校長先生に「おれたちをきょうから学校に入れてください。」とお願いしたのでした。

校長先生は武田用藏。白髪に眼鏡をかけた先生にこにこしながら「あなたたちはまだ年が足りないから来年おいで来年あげるからなあ。」とことわられたのでした。二人はすごすご引き上げた途中で気の強い康夫君が憤慨惜く能わず「武田おじいちゃんにはねられた。」と嘆声をもらしたのでした。

註 当時の学校名 武鎗尋常小学校
校舎二階建袖付コの字型中央二階建玄関廊下
「前面」「東」「西」三方に在り、欄干を廻す。
中央室、職員室同下 小使室右階上 奉安所袖
の部上下とも教室 四教室 下宿直室

その二 「い」の字の学習

とき 1年第2学期のある日明治35年秋
ところ 安養寺借用校舎庫裡の一室
環境 西側廊下に面し細長い暗い部屋 特に曇り雨の日ぼんやり薄暗くよく見えなかった。

～“百年のあゆみ”より抜粋～



氏工兵太淵岩長村

私財を投じ、学校建設に尽力 岩淵太兵衛氏



昭和5年小学校卒業

菅原 幸夫（故人）

学校創立百周年記念にあたり小学校当時の思い出を、二、三述べてみたいと思います。

◎学芸会について（大正13年～昭和5年）

今の浜井場分校は、独立校として6年生までありました。その頃の児童数は180名位でした。

今の学芸会のように、劇 合奏 ダンスが主でなく、児童全員の朗読 お話 暗誦が主で大変時間がかかりました。

学芸会の練習方法は、各部落ごとに夜間順番で各戸を回って練習をしました。部落には、組長がおりまして、その組長の指示に従って朗読 お話 暗誦の練習をしました。どこの家でも夜食をだしてくれますので、それを楽しみに一生懸命やったことを思い出します。

◎集団登校について

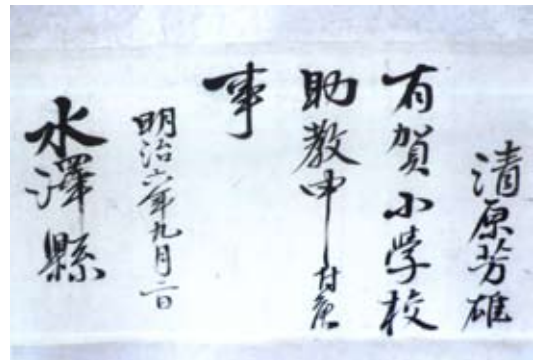
これも、部落の組長が中心となり、朝登校するとき、1年から6年まで、呼んで歩き全員そろったところで、二列に整列して集団登校をしました。学校に到着すると、正面玄関の前で、整列をして、組長の合図で奉安殿に向かって、最敬礼をして、それぞれ教室にいきました。

◎夏休みこども学校について

夏休みの思い出はなんとしても、朝食前の勉強会です。場所は 神社 仏閣 学校 民家に設け 朝食前に集まり、夏休み練習帳を中心に、その他算数 国語の勉強です。先生は高学年があたり、厳しく勉強いたしました。

これも組長が中心となり、責任をもって勉強を続けたことが印象に残っています。

～“百年のあゆみ”より抜粋～



免状（明治6年）御賀八幡神社所蔵



賞状（明治45年）



校旗寄贈記念写真（大正11年）



沿革 (昭和10年～昭和23年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|--|
| 昭和10 | 青年学校実施 (満12歳から19歳未満) |
| 昭和12 | 奉安殿落成 |
| 昭和16 | 武鎗、有賀、大袋を国民学校と改称する。3校連合運動をする |
| 昭和17 | 武鎗・有賀・大袋の国民学校を廃し、有賀国民学校を創設する 有賀国民学校を本校とし、浜井場・大袋を分教場とする |
| 昭和18 | 浜井場分校の児童数増加に伴い、初等科5、6年は本校通学とする 二宮尊徳像除幕式 (養蚕実行組合寄贈) |
| 昭和20 | 戦争終結の玉音放送を職員、児童ともに拝聴 併設の青年学校独立し、有賀青年学校と称す 修身、地理、歴史の授業停止 奉安殿撤去 |
| 昭和22 | 日本国憲法公布 有賀村立有賀小学校と改称する。有賀小学校父母教師会を結成する 社会科授業開始「くにのあゆみ」 |
| 昭和23 | 放送教育実施 |

旧有賀小学校 四季の思い出

支援ボランティア

金野 秋子

私が小学校の頃の通学路は、今の町館区の集会所の上の坂道でした。登って行って奉安殿の前でお礼をし、二宮金次郎の銅像を見て校内に入りました。元日の四方拝には袴をはいて登校しました。校長先生はりっぱなモーニングの礼服を着て天皇陛下のお写真をかゝげ式場に飾り、「年の始」を歌いました。式が終わると紅白の餅とミカンをいただき帰りました。式場は教室の仕切の戸をはずし作りました。式がある毎にたいへんでしたね。

春は田植え休みがあり、子供達をおぶったり連れったりして学校を託児所にして遊ばせました。夏は堤や中江川でたのしく水泳ぎしました。秋は運動会をするには校庭がせまいので、今のふるさとの森の近くで浜井場・大袋分校と合同で行いました。テント・机や、賞品・飲み水等リヤカーに積んで山道に行く小使さん、苦勞したことでしょう。運動場の廻りが草原の土手で自然の甲子園のようで最高でした。寒くなる前に木売沢の山に行ってストーブに焚く杉葉を拾いました。冬になると校庭に雪がいっぱい積もるので思いっきり雪合戦をして楽しかったね。

戦争中なので、授業途中でも先生に「兵隊さんが入営するので白山神社に祈願に行きます。」と言われ参列し、お祈りが終わると夏川まで日の丸の旗を振り「歓呼の聲に送られて」を歌い万才を叫び見送りました。敵の領土を占領すると、旗行列、夜は提灯行列をして祝いました。まだ思い出がありますがほんの少いでペンを止めます。

来年から有賀に学校が消えると聞き少しさびしく胸がつまる思いです。ベットの上で・・・



本校卒業生 なつかしき学舎 思い出募るあの師あの友 (昭和17年)



在学当時の思い出

昭和19年度卒業

金野 刃吉

此の度、有賀小学校の閉校のお話を聞き、一抹の淋しさを感じます。それも児童が余りにも少なくなったと聞きますと致し方ないのかと思われます。

さて、明治6年の開校以来、140年の長い間にはいろゝプロセスがあったことでしょう。その昔、私の祖父も寺子屋で勉強したと話していました。いわゆる明治23年には教育勅語が出され、その中で私塾から学校。勅語の「学修め業を習い」と、明治の並々ならぬ変身がうかがはれます。

私が武鎗小学校に入学したのは昭和12年でした。日中戦争が始まり世の中は、戦時色に変わっていった頃だったと思います。物は少なくなりいわゆる統制され配給制等も始まった様でした。入学はしたけれども1・2年頃は体調がすぐれず石橋病院に通院したことを覚えています。そのため家庭療養で両親始め学校の先生方、友達等に迷惑をかけお世話になっていました。今もって感謝しており心からお礼申しあげたい。小学校5年の12月8日に太平洋戦争が始まりました。これから大変です。若い男性は軍人として戦地へ、若い女性達は軍需工場へ、私達は家庭守り乍らの農作業等。又、学校の先生も兵隊として戦地に出征し、生徒は勤労奉仕、勉強するにも教科書ノートなども少なく自習等多かった。夜になるとアメリカのB29爆撃機による空爆等々「勝つ迄は」と学校で勉強することは本当に少なかった。思い出は走馬燈の如く去来して止みません。

さて、学校が閉校しても、今迄やってきた地域の行事コミュニティ活動の場として、語り合い寄り合いイベント等を緊密にして絆をコミュニティ活動に活かして欲しいです。今後とも有小の絆をコミュニティに移して、更なる発展を祈念申し上げペンを置きます。



奉安殿石段前での先生方



青年学校の木札 安養寺所蔵



戦時中の集合写真 (昭和19年)



私の小学生の思い出

第15代父母教師会会長

菅原 博

此の度、有賀小学校が再編統合により閉校を迎えることは非常に残念でなりません。これも生徒数の減少により現在の教育状況から見ればいたしかたないと存じます。

私が浜井場分校に入学したのは昭和15年で我々同級生は男女合せて23人で一番少ないクラスでした。分校時代は今のような遊具もなく休み時間などは走ったりケン玉等をして遊び4年生まで過ごしました。狭い校庭ですが運動会をしたり学芸会・遠足等楽しい思い出が浮かんで来ます。5年6年は本校で勉強しましたが小学校時代は戦争の時代で食糧が大変不足して運動場である鹿壇を開墾してそば麦等を作り食糧自給に励んだのでした。5年生の8月15日には天皇陛下の大切なお言葉があるとのことで全校生徒が校庭に集合してラジオ放送を聞き日本は戦争に負けたんだという思い出があります。その後6年生卒業し栗原農学校へ進学、高等科に残る人と別々に勉強することになりその後昭和23年の学制改革により六三三制になり農学校で3年間中学校の勉強を学んだのです。

有賀小学校は明治6年創立以来140年の歴史ある学校でありましたが大変老朽化が進み昭和53年に新しい校舎が新築されました。しかし、過疎化が一段と進み新校舎も閉校になるとは何度考えても残念でなりません。今度発足する若柳小学校の益々のご発展をお祈りいたしまして私の思い出と致します。



分校卒業生（昭和15年）
ふるさとのなつかしき
思い出深い校舎ありがとう

昭和十五年年度卒業



分校ラジオ体操



夏の日に思う

第17代父母教師会会長

小野寺廣也

光陰は矢よりも迅かなり。今年、小生喜寿まで馬齢を重ねた。小学校時代の思い出を綴る、60数年前の記憶を掘り起こしつつ……。

昭和17年4月、有賀国民学校浜井場分校初等科へ入学。どうしても戦争を抜きにしては語れない。昭和16年12月8日、ハワイ真珠湾攻撃、欧米と戦争状態に入れりと報道していました。叔父も満州関東軍に12月入隊していました。巷には「贅沢は敵だ、ほしがりません勝つまでは」等の戦意高揚・国威啓発の言葉が飛び交っていました。

昭和20年は、4年生。戦況は一年毎に厳しさを増し、物資食料共に窮乏し、農家ですら食事に困る様になりました。それでも日本は神州、戦争には絶対勝利すると一般国民は信じさせられていました。

8月15日は夏休み中ですが、校庭を開墾しての大豆栽培や雑草を刈り取っての堆肥作りなど、これら労作の為の招集日だったと記憶しています。下校時、分校主任の荒井亨先生が、12時に天皇陛下のラジオ放送があるから、ラジオのある人は聴く様にとのことでした。祖父も承知していたようで、ラジオのスイッチをつけ玉音放送を聴きました。

「堪エ難キヲ堪へ、忍ヒ難キヲ忍ヒ、以テ萬世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス」

昭和23年3月、戦中戦後と世相に翻弄されながらも、道を踏み外すことなく卒業。中学・高校と学業を修め成人した。以来「人の先に立たず、人の後にも立たず」と中庸を旨として生きてきた。これからの余生も穏やかに過ごして行ける事を念願する。



分校託児所の記念写真



尋常小学校教科書



沿革 (昭和24年～昭和37年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|---|
| 昭和24 | 新校舎3教室を増築 学校図書館設置 |
| 昭和29 | 町村合併により、若柳町立有賀小学校と改称する 大袋分校落成 |
| 昭和31 | 大袋分校、若柳小学校に移管編入となる 浜井場分校落成。浜井場分校に元青年会館を寄贈される |
| 昭和32 | 校歌制定 |
| 昭和33 | 脱脂粉乳給食開始 道徳教育の実施 |
| 昭和36 | 補食(味噌汁)給食開始 |
| 昭和37 | 宮城県北部地震 |

有賀小学校の思い出・昭和26年入学

区長

佐藤 幸雄

昭和19年生まれの私達有賀小学校入学は昭和26年で約45年前のことです。当時は今の町舘老人憩いの家の場所に校舎が有りました。入学写真は二宮金次郎(銅像)の南側で傾斜の有る場所でした。先輩、後輩の方々もたぶん同じ場所だと思います。運動会には浜井場分校の人達も来た思い出が有ります。5年生、6年生からは浜井場分校の人達と41名ずつA組、B組と分けられました。

寒くなりますと、ストーブの回りに弁当を持ち寄り温めました。なぜだかわかりませんがみんなおかずをかくして食べた記憶があります。当時はノミやしらみがおり学校で全員消毒等したものです。遊びというと男はバツタ(紙で出来た丸いもの)・ビー玉(ガラス玉)等です。チャンバラ・かくれんぼ、夏は水泳。プールがないからどこの部落の人達も自分の方の川や堤でみんな遅くまで遊んだものです。

小学校の頃は、春休みもあり農家の人達は忙しく、どの家の子供達もいろいろな仕事を手伝いました。

校歌にも“春のくりこま 山の雪 ふもとは桜花ざかり 秋は稲の穂そよそよと 中江夏川清き里 希望輝く 学びやよ”今もだいたい覚えています。その学校が今年度で無くなると聞いて、びっくりそしてむなしくさびしい気持ちでいっぱいです。



文化の日 校門の前で (昭和24年)



家庭科指定校 (昭和37年)



有賀小学校の思い出・学校がなくなる

昭和34年度卒業

金城 祐子

宇宙ステーションが空を飛ぶ21世紀。行く川の水が元の水でないように私達の暮らしの変化も止められない。

有賀中学校がなくなってどの位経つのだろうか。小学校も姿を消すとのこと。淋しいかぎりだが、事情が許さないのだろう。

私達の世代が通った有賀小学校は建て替えがあった時代。村役場（村だった頃の役場は、安養寺辺りにあった）の一室で勉強した。翌年は、中学校の体育館が教室だった。今無くなる有賀小学校の体育館のことで、平成19年10月に絵画教室を、12月には日曜絵画教室をさせていただいた体育館である。

ややこしいが既がない小学校は高台にあって、その昔、一人作法室で作文の清書をさせられた。それが郡（現在の市）大会で入賞。教室で読まれたことを思い出す。担任の先生は書道と算盤、作文に熱心だった。図工では1年生の時にやはり郡大会で賞を頂いた。色紙を好きな形に切り取って黒い紙も切り取り、紙の裏側から貼るスタンドグラス風図工で、郡東部部会からデザイン特賞を頂いたのは中学時代。今もその賞状は大切に持っている。昭和37年10月31日付だ。

さて、今も大事にしているものの中に通信簿がある。いつ燃やそうかと思案する。情報がいっぱい通信簿。高台の小学校はなく、中学校も無く、更に只今の小学校がなくなる。それでは逆に大事にしようかとも考える。恥ずかしいものもあって他人には見せられない通信簿。思案投げ首の60代なかばである。



登校の様子（校門前）



有賀小学校建築の様子



登校の様子（下町付近）



絵画教室（多田（金城）祐子先生）



沿革 (昭和38年～昭和47年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|--|
| 昭和38 | 校旗樹立式 県指定家庭科研究公開 二宮尊徳像除幕式 |
| 昭和41 | 県指定体育研究大会 プール新設 (旧有中校庭) 鼓笛隊編制 |
| 昭和42 | 「浜井場よい子のうた」できる (浜井場分校) |
| 昭和44 | 県教委指定国語研究公開 有賀幼稚園併設 |
| 昭和45 | 郡小学校体育大会800mリレー新記録で優勝 国語教育に対して学研賞受賞 |



さようならに感謝を込めて

昭和40年度卒業
菅原 清子

明治6年創立、140年の長い歴史を閉じて我が有賀小学校が新生若柳小学校に統合する事になった。有賀の地に生まれ育った私には母校が閉校となる事は、とても感慨深いものがあります。昭和34年、私は有賀小浜井場分校 (現在有賀集会所) に入学し、4年生まで過ごし5・6年生を本校の有賀小学校 (現在有賀運動公園) で学びました。遠い記憶を紐解けば、分校では子ども親達もとても親密な関係で親は農業で家に居り輪番制でみそ汁給食等がありました。物質的には質素ながら心豊かな日々を過ごしたと思います。又、現在の様なスポ少活動はありませんが、先生方に朝練や放課後練習で習字や珠算の資格を取らせていただいた事、今尚心に残っています。

又、本校の裏山で貝の化石採りをした事、当時の冬はダルマストーブで家からたき木を持ち寄りその中に漆の木が混じっていて大騒ぎになった事、ストーブで暖めたお弁当から沢庵の臭いが漂っていた事等、今では語り草です。現在の有賀小学校の場所は当時は有賀中学校が建っていました。歴史はいつの世も姿を変えて繰り返されるものだと思います。

閉校となる事はとても寂しい事ではありますが、新たな時代に新たな歴史を皆の力で創り出すものと考えたいと思います。

そして、これまで有賀小学校を支えご尽力された歴代の先生方、脈々と受け継がれた有賀地区の皆様へ深い感謝を込めて。

「有賀小学校よ さようなら」



運動会





有賀小学校の思い出

昭和44年度卒業

金野 陽子

私が有賀小学校を過ごしたのは昭和39年から44年まででしたから、ずいぶん昔のことです。東京オリンピックやアポロ11号の月面着陸があった時代です。今回当時の思い出をとのことでしたが、記憶に自信がありません。それでもつらつらと、当時お世話になった先生方のお顔と一緒に、あの木造の校舎で過ごした日々が懐しく思い出されます。

初めての集団生活だった為か、1・2年生の頃は泣き虫でした。時々学校とは反対方向に歩いては母のバイクで送られたり……。3年生ではドッジボールの楽しさを知りました。4年生の学芸会ではウサギのお母さんになりきりました。5年生になると浜井場分校の同級生と一緒にになり、少し刺激を受けたかもしれません。5・6年生はなんだか楽しかった。放課後は校庭でいつまでも遊んでいたし、野外炊飯のカレーは食べ過ぎたし、木造校舎での肝試しは怖かった。給食が始まるまで冬はだるまストーブの廻りに並べられたお弁当も思い出します。

いろいろ思い出すうちに、有賀小学校は私の社会生活の第一歩となるかけがえのないものでした。先生・親（家族）・地域の皆さんに守られながら安心して前に進んでいたと思います。そして自分の子供たちが入学した時に同じ校歌を歌った時は少なからず感動もしました。

最後に、これからのお子様たちが統合になった小学校の環境で逞しく健やかに育まれていってほしいと願っております。



運動会



沿革 (昭和48年～昭和52年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|---|
| 昭和48 | 開校百周年事業として、分校を統合し新校舎建設するための新校舎建設促進委員会を組織し、運動を進める 開校百周年記念式典挙行 記念誌「百年のあゆみ」を刊行 |
| 昭和49 | 有賀スポーツ少年団後援会誕生 父母教師会県表彰 |
| 昭和50 | 交通少年団結成 |
| 昭和51 | 県教委指定算数研究公開 校舎改築起工式 (旧有賀中跡) |
| 昭和52 | 浜井場分校閉校記念式典 「校舎さよならまつり」実施 記念誌「御賀の学び舎」刊行 |



百年のあゆみ



御賀の学び舎

有賀スポーツ少年団 (後援会)

第2代父母教師会会長

スポ少名誉顧問 岩淵 敬一

団の結成は、日本スポーツ少年団が日本体育協会50周年記念事業の一貫として、昭和37年度に創設され、翌年宮城県にて結団し、県内八つの教育事務所単位に事務局が置かれ、築館教育事務所から若柳町社会教育課、又、学校当局の熱心な指導のもと、昭和48年度であり、当年39周年になります。当初4年生以上で、剣道部・野球部・卓球部、更に陸上競技教室が加わり、指導者は先生や地域の多くの方に携わっていただきました。運営費では、事業者・商店主・篤志者にご協力があり、後に地区内全戸より「地域で生まれた子供は、地域全員で育てよう」の合い言葉で後援をいただき今日に至っております。又、町によってグラウンド拡張がなされ、野球場に土砂を入れ、ダイヤモンド・ピッチャーマウンド等の作成や暗渠工事に、多くの方々のご奉仕がありました。

団員は、ドロだらけになりながらボールを追い、バットを振り、竹刀を振りかざし大きな声で打ち込み、機敏に左右のラケットさばきも見事に日々の練習に目をキラキラ輝かせていました。友達と一緒にスポーツの出来る喜びを体いっぱいを感じながら、始めは覚束ないしぐさでも日を追う毎に上達し、上級生になると下の団員に教えるまでになるのです。ここを巣立った団員は、指導されたことをしっかり守り、社会に出て数多くの貢献をしています。

地域の皆様からいただいた、力強く暖かいご支援に心から感謝いたします。



有賀スポーツ少年団
後援会誕生
(昭和49年)





感謝

第30代父母教師会会長

昭和50年度卒業 鈴木 洋一

3.11の衝撃的な体験は、私達に故郷を想う心を強く呼び起こしてくれました。その故郷を代表してくれるのが少年時代を過ごした有賀小学校だと思っています。

昭和44年4月の入学から6年間、木造で床が軋む校舎と体育館ではなく講堂、そして当時は広いと思っていた校庭、そのような環境が当たり前とあって過ごした時代。カラーテレビが家庭に普及し、週間マンガが凄い勢いで発行部数を上げ、世はまさに第二次高度経済成長期の真っ只中。そしてオイルショックによる高度経済成長期の終焉といった極端な時代だったにも関わらず、世の中の動きなどにまったく興味を示さず、ただただ遊びに夢中になったあの時代が懐かしく思います。

古いアルバムの中は小学校時代の思い出ばかりで、一枚一枚がその瞬間を走馬灯のように蘇えらせてくれます。遠足、海水浴、修学旅行、野外キャンプ、運動会、学芸会、それから、担任の先生方。そして少年達誰もが夢中になった少年野球、ソフトボールや夏休みの釣り大会等々。ゲーム機器やパソコンなど何もない時代が、私達に遊びの知恵と、友達の大切さそして生きる知恵を自然に教えてくれました。

その大切なものを教えてくれた小学校が無くなるのは、時代の流れとはいえ、何とも言えない寂しさと悲しさを覚えます。

私達の使命は、私達そして先輩方が築き上げてきた有賀小学校の歴史と文化、そして伝統を決して失うことのないように後世に語り継いでいくことです。



有小航空写真



未来の有賀小学校（児童絵画）



県教委指定算数公開研究会



交通少年団



講堂にて卒業式



小さな学校大好き

旧職員

清原 郁子

統合のため分校は後1年で閉校という年に若柳小から転任してきた。校舎の裏の少し高い所に離れのような教室と図書室があり、そこが我が3年生11名の城だった。机11ヶで作った小さな円陣は、それまで1クラス40名を見続けてきた私の目には、とてもかわいらしいものだった。11名という少なさに最初はとまどうこともあったが、すぐに少人数だからこそ何かができそうな期待と楽しみに変わった。分校はいい。もっと早く分校勤務を希望すればよかったと今になっても思う、わずか1年のしあわせな日々だった。

その後本校分校は統合し、どういう事情からか正面玄関前の壁画と校章を考えるようにと校長から難題を頂戴してしまった。

「有賀」を象徴するもの。誰に聞いても答えはもらえず、夏休み中悩み苦しんだものだった。目の前に広がる有賀の景色、校庭を走り回る子ども達の姿とはじけるような笑い声、それが有賀のシンボル。

校章は、本校の四地区、分校の三地区の集合体として7枚の花びらにし、この花が未来に外界に向かって大きく咲くことを願って。

壁画は、子ども達の普段の生活をそのまま描いた。

学校は小さくていい。どの子にも役割が与えられ、能力を発揮する機会が数多くもてる。

小さな小さな有賀小学校での日々を宝物にね。私もみなさんも。



毎日通った通学路は今も変わらず・・・



離れの教室



今でも残っている老木



分校での思い出

昭和56年度卒業

近藤 道代

昭和51年に浜井場分校の1年生として入学し、1、2年生を分校で過ごしました。同級生は男子4名、女子2名の6名でした。当時、分校には体育館も無ければプールもありませんでしたので、今の体育の授業とは内容も全く違っていました。が、特に思い出の中にあるのは冬の授業です。男の子はミニスキー、女の子は肥料袋にわらを詰め、紐を付けてソリを作り、官庭寺の裏道でミニスキーとソリ滑りです。とても細い道でカーブも程良くあり、迫力満点でした。

また、冬の給食も楽しみの一つでした。冬はダルマストーブだったので、ストーブの上でトーストにしたり焼きミカンにしたり、温かい牛乳も飲めました。(灰の掃除は大変でしたが) お掃除は毎日ぞうきんで板目拭きです。廊下は「よーいドン！」の競走でした。お陰でぞうきんが絞れない子は一人もいませんでした。

運動会、学芸会は本校まで全員で自転車で行きました。出し物は全て複式学級で取り組み、2年生の時の劇、白雪姫では、白雪姫をやりたいかったのが実際はママ母役。がっかりしながらも、1年生に負けなよう一生懸命やったのを覚えています。

今は集会所として使われていますが、建物の裏にある藤棚は分校時代から変わらず残っています。藤の花が咲く時期になると、分校で過ごした時の事が思い出されます。今の自分にとって、大事な2年間でした。

板目ふきで競走しました！ヨーイドン！！



雨が降ると体育館がわりにもなった廊下



向かって左が玄関でした



沿革 (昭和53年～昭和56年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|--|
| 昭和53 | プール建設 分校統合移転。新校舎落成祝賀会 分校閉校記念誌「御賀の学び舎」を刊行 校章制定 宮城県沖地震 |
| 昭和54 | 校舎新築記念碑除幕式 |
| 昭和56 | 福祉教育普及校指定 ふるさと少年教室指定 |



校章制定

有賀小学校の思い出

昭和54年度卒業

新沼 弘己

私の小学校時代の思い出は、クラブ活動です。当時の校舎は現在の場所とは違うところに有りました。木造2階建てで、冬の暖房器具はダルマストーブ（石炭）でした。また、体育館ではなく講堂でクラブ活動をしていました。

当時のクラブ活動は、野球部と剣道部の二種目で、4年生から入部が認められていました。私は剣道部に入部しました。同級生が男子3名、女子5名ぐらいだったと思います。当時私たちが入部する前は、体育館シューズを履いて練習をしていたみたいでしたが、私たちが入部すると同時に新しいコーチの方がいらして「剣道は裸足が基本」と言われ、素足で行うようになりました。当時の床はかなり古く練習の大半を棘抜きに割かれた記憶があります。また、担任の先生にテストなどで悪い点数を取った場合、練習の参加を禁止されましたがそれでもあまり勉強をした記憶がありません。そして最も忘れられない出来事が1978年6月12日の練習中に起こりました。それは宮城県沖地震です。初め体育館のガラスが音を立てて揺れたのでトラックが通過したぐらいにしか感じませんでしたが、その後突然大きな揺れになりました。その瞬間、3名ぐらいがピアノの下に潜り込みました。私は人一倍早く校庭に避難したと思います。幸い誰一人怪我もなく無事でした。

剣道に出会えて現在の私がいると思います。顧問の先生や同級生、後輩に感謝しながらこれからも頑張っていきたいと思います。



入学記念 S55.4.8 (昭和55年度)





有賀小学校の思い出

昭和55年度卒業

小野寺繁喜

私が有賀小学校に入学した昭和50年は、本校、分校と分かれていて現在の有賀小学校に通ったのは4年生からでした。新しい2階建ての校舎、新たな友達との出会い、楽しみと不安の中、体験した昭和53年の宮城県沖地震。新有賀小学校としてスタートしたこの年は忘れられない思い出となっています。

有賀小学校での一番の思い出は「なわとび」です。段級位制があり、上達するにしたがい級が上がり最終的に下位の者に指導できる「指導員」の位が与えられるもので、何種類かの跳び方を組み合わせた「プログラム跳び」を完璧に跳べるようになるため、競って休み時間、放課後に限らず体育の授業でも取り入れられ、テレビで紹介されるほど活発に行ったのを思い出されます。

そんな我が母校、有賀小学校が無くなるのは時代の流れとはいえ大変残念でありませんが、これまで学校行事、PTA活動等、有賀地域皆様の支援、ご協力により成り立ち、継続してきたものと思います。

今後も、このような地域一体の良さを引継ぎ発展していければと思います。



陸上競技大会



運動会



6年生を送る会



沿革 (昭和57年～昭和59年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|--|
| 昭和57 | ふるさと少年教室開催 築山、遊具新設 |
| 昭和58 | 福祉指定研究発表 有賀小学校交通少年団県表彰 NHK合唱コンクール優良校 |
| 昭和59 | NHK合唱コンクール県大会優良校 新校旗樹立 |



閉校 そして 新たに

第18代父母教師会会長
高橋 義雄

この度、市の学校再編計画の流れのなかで若柳地区の小学校を一つに統合し、若柳小学校として平成25年4月1日からスタートする事になりました。

少子化の流れの中とはいえ、閉校という言葉には一抹の寂しいひびきを感じられます。私は昭和53年末に浜井場分校の会長として閉校になる分校を見送る経験をしました。

当時4年生まで40人ほどの児童数でしたが明治6年以来100年以上続いた分校閉校の寂しさは昨日の事の様に思い出されます。



水泳 白チーム優勝

少し今回と違うのは有小が新たに建設され地区の教育文化の「よりどころ」として、又有賀は一つと言う思いが閉校の寂しさよりも「明日への期待」が強く、子供達の様子から見てとれたのでした。私はこれを感じこの子供達は大丈夫だなあと深く安堵したものでした。

分校の閉校とはいえ、未来へ夢をのせた有賀小学校の始まりだったのです。

爾来34年、有賀小学校は勉強にスポーツ少年団に大活躍、地域住民と一体となり、他にさきがけて開かれた学校として歴史のページを見事にかざってくれたのです。

さあ！今度は新生若柳小学校の始まりです。若柳地区の全児童によって、未来・夢の実現に向かっての大きな歴史の始まりです。

児童諸君の今後の大活躍を期待すると共に幸多き事をお祈りいたします。 国の宝 この子供達、応援します。



芋ほり



運動会 ダンス



学芸会 金管演奏



当時の子供達に感謝

第21代父母教師会会長

鈴木 則道

社会の変化により長い歴史と伝統を有する有賀小学校が、児童の減少に伴い再編統合になって閉校するという事に一抹の寂しさを感じる次第であります。私も2年間PTA会長を務めさせて頂いた関係から当時の思い出を少々述べたいと思います。

有賀小学校は昔から地域と学校・PTAが常に一体となり様々な事業・行事に参加・協力を頂きました。環境整備を始め、子供達が立派に応えてくれた気が致します。スポ少のコーチ・指導者を始め、学校の現場教師・父兄の熱意等が旨く噛み合い、町内は勿論、郡或いは県の大会や催し事の都度優れた成績を修めて参りました。

特に印象深い思い出として、昭和62年有賀ヤングライオンズが宮城県スポーツ少年団野球大会(ジャンボ大会)に於いて、3回戦を勝ち抜き4回戦が宮城球場で試合が行われるという事で、PTAの研修旅行を急遽野球の応援に切り替えその後作並温泉での懇親会を行った事、又昭和63年には全国少年少女リレー競技大会で県優勝した菅原美和さんが全国大会(国立競技場)に出場し第4位に入賞された事、更にその年には郡陸上競技大会に於いて、男女ともに第1位となり総合優勝をするなど輝かしい活躍をされました。

有賀小学校の歴史に名を刻んでくれた先生方に改めて感謝を申し上げ、思い出の一端と致します。



学芸会



焼き芋大会へむけての芋ほり



豆まき



第54回 全国学校
音楽コンクール



4年生の遠足



すげ笠づくり



沿革 (昭和61年～平成2年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|---|
| 昭和61 | みどりの少年団結成 NHK全国音楽コンクール宮城県大会銅賞 文化の日菊花展、整備委員会学校賞 校庭用地拡張・整備工事 |
| 昭和62 | 校舎増築（表玄関、視聴覚室、放送室、普通教室、音楽室） 交通安全活動功績により、県本部長、県交通安全会長より感謝状 |
| 平成 元 | 新校旗寄贈 |
| 平成 2 | 宮城県児童オリンピック大会男子400mリレー優勝 |



交通安全教室

スタートは有賀小学校

昭和63年度卒業

国井 美和

私は、三人兄弟の真ん中で、有賀小学校のとき、兄の走る姿にあこがれて陸上を始めました。教室から見える校庭、いつも帰りの会が終わると2階の教室から走って外へ行き、陸上練習を行っていました。初めてスパイクを履いての練習、リレーのバトンパスの受け渡し、何もかもが新鮮でワクワクしながら練習をしていたことを覚えています。特に、バトンパスの練習は初めての経験で、仲間とうれしくて、帰り際道路を歩きながらバトンをもらう構えをして帰ったことを覚えています。

6年生では、全国少年少女リレー大会で東京の国立競技場で行われる全国大会へ出場することができました。出場にあたり、若柳地区予選の様子から、全国大会の結果まで有賀コミュニティだよりに何度か載せていただきました。小学生の私は、自分のことが新聞に載っている、そしてたくさんの方に応援してもらっていることが励みになりました。全国大会から帰ると、親戚だけではなく、近所の方が「おめでとう。」と言って、私の帰りを外で待っていてくれたことに感激しました。有賀の方のたくさん応援や励ましがありません。その後、仙台の高校に進学し、休みの度に実家に帰って道路を走っていると、「帰ってきてたの？」と、車を運転している方も窓を開けて声をかけていただくことも度々ありました。私は、たくさんの方の励ましを有難く感じます。有賀で育ち、有賀で学び本当に良かったと思います。



入学式



給食 - 桜の木の下で



すげ笠づくり
(平成2年度)





有賀小学校と私

支援ボランティア

鈴木 正美

少子化の為に各地で進んでいる学校統廃合が、ここ有賀にもついにやって来ました。



青少年赤十字加盟登録式

私も二人の子供が卒業してから直接学校との関わりも遠のいておりましたが、平成8年からコミュニティ運動会が小学校の運動会と合同で行れる様になり、有賀コミ音頭が私の宗家家元が振付した関係で運動会が近くなる毎に子供達の練習に通い、その時に長い年月有賀に唄い続けられて来た有賀音頭を指導致しました。私は毎年の様にこの時思う事が有りました。この子供達が社会人になり故郷を離れても、地域の唄や踊りを通して「有賀の子供」として故郷への想いが心に残る事を祈りながら指導に当たって来ました。

また、菅原邦子校長先生が赴任されてからの事です。ある日、先生から低学年への日常生活のマナー指導のお話を頂き嬉しく受けさせて貰い、年1・2回ですが目をキラキラと輝かせて聞いてくれる子供達に私の方が癒されておりました。基本理念の愛・美・礼・和の精神で自然すべてのものに感謝の気持ちを表現できる様にと、雛祭り・端午の節句・七夕の年中行事を通して日本の伝統文化と礼法を学びながら行事毎にご家族や地域の皆さんを招いて楽しく過ごして来ました。有賀小学校は、地区内の世代交流や地域文化の継承等多くの役割を担って来ました。



築山にて（平成4年度）

有賀のシンボルでもある有賀小学校は、私達の心の中に優しさと温かさと懐かしさと元気を残してくれました。これからも私達みんなの「心の故郷」であり続けると思います。

そして、有賀小学校がなくなっても地域の宝である子供達を有賀の自然の中で有賀の地域力で育てていけたらいいと思います。この有賀の地がいつまでも子供達の心を育む場である事を願っています。



運動会



修学旅行



田植え



稲刈り



沿革 (平成3年～平成8年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|--|
| 平成 3 | 開校記念の日制定 (12月1日) |
| 平成 6 | 阪神大震災 |
| 平成 8 | 有賀小・有賀幼・有賀地区民合同運動会年1回開催へ 生活科学研究指定 (2カ年 文部省) |



運動会

有賀小学校の思い出

第23代父母教師会会長
岩淵 幸夫

明治6年の開校以来、創立140周年を迎えた栗原市立有賀小学校も、24年度でいよいよ閉校になると聞いて非常に残念に思います。少子化が進み、これから統合して若柳小学校として児童の皆さんは、勉強は当然ながらいろんな経験をする事と思います。

振り返って見ると平成3年の頃は、PTA会員が135会員と児童数が184名程だったと思います。4月の総会に於いて、伊藤校長先生他父兄会の皆様方のご理解を頂き、体験学習の場として、地域の皆様方のご協力も有り学習田として田植えをすることにしました。当然ながら児童達は素足で泥んこ



収穫祭

になりながらの田植え。殆どの児童達が初めての経験であり先生・父兄会の皆さんも汗だくになっての一日でした。そして秋の収穫祭。父兄会の協力におもちを臼でつき、あんこ餅に納豆・えび餅、児童達は色んな想いで収穫祭を終え、今でも当時の児童達は、泥んこの中での田植えは良い思い出になっている様です。

当時は、緑の少年団での活躍。野球・卓球・剣道・陸上、児童達は1年間精一杯頑張っていました。そしてPTA役員、先生方、父兄会の皆さんと何度となく懇親会を持った年も有りました。当時の先生方、父兄会、そして役員の皆様方には大変感謝申し上げます。

最後になりましたが、長い有賀小学校の歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、戦前戦後のたくさんの思い出が有り、これから統合された若柳小学校としての新たなスタートです。これからも数多くの新しい歴史を作って頂きたいと思います。



稲刈り



みどりの少年団
伊豆沼合宿





有賀小学校の思い出

第26代父母教師会会長

小野 大介

私がPTA会長をしていた時（平成8～10年）の思い出は、文部省の公開授業が、開催されたことです。全国から先生方が、2～300人が来校するというので、びっくりすると共に、私達にこの有賀小学校でやれるのか、不安でした。全国からの参加ということで、くりこま高原駅等からの送迎係、若柳金成インターからの案内板の設置や、誘導係、参加者への昼食の準備や駐車係、たくさんの係や仕事がありました。なかでも、「接待係のお母さん方は、一番いい服を着てきてください」と教頭先生に言われたのには、大変びっくりした記憶があります。100人前後のPTA会員なので、この公開授業を成功させるためには、会員全員で、「一人一役」を合い言葉に、一致団結し無事終了することができました。参加された先生方からは、「とてもよかったよ」との言葉を聞くことができました。これぞ、有賀小学校ならではの、学校とPTAの協調の強さだと思いました。

当時は、150名前後の児童がいたように思いますが、まさか有賀小学校がなくなるとは夢にも思いませんでした。若柳に行っても、有賀のよさをなくさずに、がんばってもらいたいと思います。



プール清掃

クリスマス
音楽集会

卒業制作（花台）



運動会



プール清掃

たてわりリレー



くりでん子どもクイズ大会列車



豆まき集会



卒業記念



6年生を送る会



沿革 (平成9年～平成13年)

| 年号 | 主な沿革 |
|-------|--|
| 平成 9 | 文部省指定生活科研究発表会 |
| 平成 12 | 宮城県歯科医師会より口腔衛生の向上で表彰 |
| 平成 13 | みやぎ国体開催 (卓球団体見学) 県・町指定心を育む実践発表会 宮城県歯科医師会より口腔衛生の向上で表彰 |



陸上大会

惜別

第36代校長
菅野 正紀

わたしが赴任したのは、平成9年4月です。2年間の勤務でしたが、忘れられないのは平成9年秋に公開した生活科・総合的学習の研究会——。

有賀はむかし、磐井郡や胆沢郡と結びつきの強い地域でした。天明の飢饉直後に起きた仙台藩仙北大一揆も、この地域一帯が舞台となっています。さらに逆上れば、蝦夷征伐30年戦争の戦場の村々……。研究会当日、6年生24名が発表した「首なし地蔵」はじめ数々の民話は、この地域独特の記憶を語り伝えるものでした。

教科書ばかりが教科書でない、といわれます。明治初期の教師も、自ら教材を作ったり児童ともども刊行物を読みあさったりしたと伝えられます。自ら自由に教材をさがすには歩いたり話を聞いたりする苦心も欠かせないのだと実感させられた1年でもありました。



授業風景



翌年、有賀小学校を会場にして行われた宮城県学校図書館研究大会で、郷土栗原を舞台にした童話や物語の読み聞かせを全学年公開したのも、前年の研究会の体験があったからなのかもしれません。そのときの童話や物語のほとんどは、学研の「読み物特集号」に掲載した作品を再構成したものでした。

研究会の終わった夕ぐれの空を雁の群れが伊豆沼へと帰っていきました。あの残照がまぶたの裏に焼きついています。

集合写真

給食風景





有賀小学校（スポーツ少年団）の思い出

スポ少指導者

熊谷 武浩

継続は力なりとよく言いますが、有賀スポーツ少年団（卓球）も素晴らしい活躍をしてきました。小学校の全国大会・卒業後には中学校の全国大会、そして高校インターハイと数々の戦績を残してきました。それもここでの礎があり、何よりも子供たちの頑張りがあったからこそだと思います。指導する者は、その時代に合った方法を学び、技術もさることながら、生活指導面も大切にし、優しくも時には厳しくしてきました。

思い出はと聞かれば、卓球を通じ、子供たちと長い年月にわたり携われたこと、そして各種大会で元気に活躍してもらったことが挙げられますが、ここで育った教え子たちが子供をつれ、またこの場所に戻って来て、指導する立場になったことを誇りに思います。

また、有賀スポーツ少年団の良いところは、小学生の子供がいてもいなくても、地域ぐるみで盛り上げるために、全戸から寄付金を募り、活動の原資とするシステムを取り入れたことは、先人の知恵は素晴らしいものだと、御礼と感謝の気持ちでいっぱいです。



巣箱掛け

さらに、何よりも活動の場である小学校の体育館を、快く使わせて頂いている校長先生をはじめとする職員皆様の協力の賜物と感謝いたします。

最後に、有賀スポーツ少年団という名称は無くなりますが、将来ある子供たちのために、活動の場所を今後とも継続できるようお願いいたします。



運動会



焼き物作り



学芸会



沿革 (平成15年～平成18年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|---|
| 平成15 | 宮城県北部地震 (5月、7月 学校への被害はなし) |
| 平成16 | 新パソコン導入 パソコンを使った学習本格実施 |
| 平成17 | 有小児童見守り隊発足 |
| 平成18 | わかば学級新設 2学期制スタート 地域ぐるみあいさつ運動総決起集会実施 |



パソコンでの学習

有賀小学校での思い出

平成16年度卒業

熊谷 美穂子

私が有賀小学校に入学したのは、今から14年前です。それまでの生活とは違い、勉強というものに初めて触れた1年生。友達や先生と一緒に学ぶ楽しさを体験しました。2年生、3年生と年を重ねるごとに、できることが増えていき、自分たちで考え、理解して行動できるようになりました。

今になって考えると、小学校生活は、私の人生の基礎になったのではないかと思います。勉強や体験学習はもちろんのこと、友達や先生との関係づくり、地域との交流など、様々な生きた経験ができたおかげで、今の自分があるのだと言っても過言ではありません。

特に、6年間の中で最も印象的だったのは、総合学習や運動会、カレンダーづくりなどで地域との交流が多かったことです。有賀の歴史や郷土料理などを地域のおじいさん、おばあさんに教えてもらい、一生懸命まよめました。有賀をますます好きになったのを覚えています。

6年間の中での思い出は、思い返すとたくさんありすぎてここには表しきれないほどです。色々な行事、学習を通して大切なことを教えてくれた先生方、友達、地域の方にとっても感謝しています。私は今、看護師を目指し勉強しています。この有賀小学校で培ったことを生かし、目標に向かって日々努力していきたいと思います。



鼓笛の練習



芋煮会

教室の掲示物



玄関上のテラスより





Memory (メモリー)

支援ボランティア

和久 弘一

民生委員・児童委員、外部評議員、有賀っ子見守り隊隊員として学校に関わってきました。「子供たちを教育するのではなく、子供たちを育てていくよう努力すべきである。教え込むのではない」という点から学校側にいろいろと提案・提言をしてきました。地域と子供たちとの融和を図るために「あいさつ運動」を遂行させたり、地域の芸能・文化の伝承に「鶏舞」を総合学習に取り入れるよう図りました。今現在、「あいさつ運動」「鶏舞」が育みの一環として子供たちに浸透しているようです。



スポーツ少年団（野球）

有賀地区・武鎗地区の郷土の歴史に子供たちが関心をもち、自分たちの先祖は、どういう生活をしてきたのか、その当時の時代背景はどうだったのか知ってもらいたいと思ひまして先生方に協力してもらいました。さらに、子供たちの体力不足・集中力の欠如を痛感して、当時野球の監督をしていたので、子供たちに「走れ、走れ、走れ」と基礎体力作りに励みました。その結果、毎年学童野球の県大会に出場、さらに選手の中から中距離で全国大会に出場と有賀小学校の名前を県内に轟かせることが出来ました。有賀の子供たちの能力の高さに驚かされました。

閉校にあたって文化・伝統が消えてくならない様、皆の英知を結集して取り計らっていきましょう。



水泳大会



地区合同運動会



体験学習



修学旅行



沿革 (平成19年～平成21年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|---|
| 平成19 | 先輩による絵画教室 (多田祐子先生) |
| 平成20 | 岩手・宮城内陸地震 3年生から6年生までの英語活動開始 先輩の話を聞く会 (倉元製作所 鈴木忠勝会長) |
| 平成21 | ようこそ先輩 (陸上、なわとび、卓球、剣道等) の活動開始 学校支援ボランティアを組織する |



1年生を迎える会

夢いっぱいの有賀小学校

第40代校長

鈴木 安子

有賀の地に生まれ、有賀で育ち、有賀小学校で学んだ子供たちよ、この良き里で育ち、有賀小学校で学んだことに誇りをもって、大きく羽ばたいて欲しい・・・その強い思いが、学校経営の中軸になりました。

「夢をもち、故郷や学校で学んだ事に誇りをもって生きる子供たち」を育成するために、「ようこそ先輩」の特別授業を企画・実践しました。地域を歩き回りいろんな所を見たり、いろんな人に会ってお話を聞きました。有賀の里を訪ね歩くたびに、驚きや発見があり、感動する日々でした。平成19年からの4年間は、子供たちのために「有賀の宝探し」をしたのです。それが、一人ひとりの子供たちに夢や希望、先輩、先人への憧れ、有賀の歴史や文化・伝統等への関心、そして、ここで生まれ育ったことへの自信と誇りをもたせ、未来への「志」を高く掲げて堂々と生きていく事につながっていくと考えたからです。「絵画教室」からスタートし「縄跳び教室・陸上教室・倉元の会長さんの特別授業・神楽鶏舞の授業・卓球/剣道教室 (若中/迫高)」等たくさん実施しました。

子供たちは、授業を通じて、たくさんの事を学びました。きっと大人の願い通り「志」を高く、有賀の卒業生である事に誇りをもって、未来に向かって羽ばたいて行くことでしょう。

教職生活最後の4年間に有賀の地で過ごせたことに心から感謝しています。「あなたに会えてよかった。みんなに会えてよかった」心の底からそう思える「ユートピア」のような4年間でした。



1年生を迎える会



通学路点検



祖父母参観



航空写真



カレンダー配り



子ども達とのふれあい

支援ボランティア

佐藤 友子

私なりに出来ることをとって学校支援ボランティアに登録しました。それから毎年のように子ども達が来てくれて、ブルーベリーを体験（摘み取り・味見・ジャムの試食・草取り・紅葉狩りなど）して頂き質問を受けました。おいしい、すっぱいと食べ比べる子、植えてみたいといろいろ聞いてくる子、ブルーベリーでジャムやケーキを作りたいなど夢や希望がどんどん広がって瞳が輝いていました。この年代のうちから農家の仕事を見たり、聞いたり、体験したりそして地域の人達と触れ合うことは大変素晴らしいことだと思います。と同時に支援者の方も思わぬ感動を頂き、又その後学校に戻って、感想やお礼のお手紙、写真も頂いたりして、うれしさ倍増でした。この時ブルーベリーをやっていて本当に良かった・・・これからももっとおいしいブルーベリーを作らねばと奮起するのです。



ブルーベリー摘み

子ども達も支援者も将来へキラキラ瞳になり、夢と希望を抱かせる「協働教育」の取り組みは、今後若柳地区になっても何かしらの形で継続して頂きたい事業だと考えます。

末筆ながら、こちらこそこれまで素敵な思い出をたくさん頂きましたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



祖父母参観



馬頭琴コンサート



カレンダー作り



長縄跳び



いちご摘み



学芸会



運動会



沿革 (平成22年～平成24年)

| 年号 | 主な沿革 |
|------|--|
| 平成22 | 東日本大震災(23・3・11)により、卒業式、修了式の延期 |
| 平成23 | 若柳地区学校再編へPTA及び有賀地区が合意 東日本大震災の余震(23・4・7)により、入学式、始業式の延期 若柳地区小学校再編準備委員会設置 有賀幼稚園休園 有賀地区閉校記念事業実行委員会設置 |
| 平成24 | 若柳地区小学校交流会(4回) 閉校記念式典 |

いいあしたへ

支援ボランティア
二階堂 實

わたしは今、複雑な思いに揺れています。でも「有賀」は芳しいその地名の通り、素敵なお生活圏でありたいと願っています。それにはみんなで思いを揃えることが欠かせません。有賀小学校の校舎を本拠地にして活動することです。有賀小学校は地域のほぼ中央に位置して、運動会や学芸会や各種行事に通い慣れた処です。多くの方が学ばれ、子どもたちと触れ合った思い出も沢山あります。学校の敷地はその昔、機械のない頃に先輩たちが手づくりで造成した処で、思いが籠っています。有賀人としての希いと汗と夢とがからみ合い、生活と文化が集約されているところです。

私はこれまでに何回も小学校を訪問し、子どもたちが生き生きと学習している姿を眼にして来ました。廊下には武鑑村の江戸期の古地図が掛けられ、校長室の壁にも有賀出身の方が寄贈された絵が飾られています。それらはどう処されるのでありましょう。母校に寄せたみんなの思いはどうなりましょうか。

これからは現在の有賀小学校を利用して、友情を深め、地域起こしを語り、子どもたちと触れ合うようにしたいのです。「絆」を太くする繋ぎ合いは有賀人の心意気です。伝承や文化を護り、子どもたち孫たちに伝えましょう。母校をコミュニティ活動の新たな舞台にし、運動会も芸能祭も文化祭も、子どもたちと一緒にいきましょうよ。その気になれば出来ます。過去を懐かしむだけでは前に進めません。今年をコミュニティ元年とし、誇らしい郷土づくりに励みましょう。



3年遠足



ようこそ先輩(陸上教室)



志津川合宿



1年生を迎える会



ALTとの英語活動

学芸会





ようこそ先輩（卓球）



プールでの活動



志津川合宿



ようこそ先輩（絵画鑑賞）



ようこそ先輩（新沼跳び）



小学校の思い出

平成20年度卒業

佐藤 史弥

有賀小学校で過ごした6年間の一日一日と、卒業した日は、今でもまだつい先日のことのようです。

その日々の中で僕が最も印象に残っているのは、6年生PTA行事の学校キャンプです。学校というみんなと会える最も身近な場で、2日間を共に過ごしたことは、僕にとってとても素晴らしい経験となりました。あの行事によって、幼稚園を含めた7年間の友達との絆がより深まったように思います。

また、僕は、小学校の時から剣道を始め、今でも続けています。思えば、今の自分の在り方の原点となったのは、この有賀小学校です。ここで出会えた多くの仲間がいたからこそ、ここまで挫折せずに歩んでこれたのだと思っています。

他にも、修学旅行、合宿、運動会、学芸会など様々な行事がありました。その一つ一つの行事の一つ一つの活動にこれからの未来を生きていくための“意味”があったと思います。知らず知らずに学んできたその意味が自分という一人の人間の礎になるはずです。

今、有賀小学校は閉校となってしまいますが、ここで過ごした人たち一人一人の思い出は「記憶」として心の中に残ります。今まで支えてくれた家族、地域の方々、先生方、仲間たち、そしてこの学舎に感謝を。いつの日か僕が父親になった時、有賀小の思い出を聞かせてあげたいと思います。それが僕からの恩返しになるから・・・。「ありがとう」



入学式

卒業式



修学旅行





3年生遠足 (Kスタ)



6年親子行事



プールでの活動

思い出の有賀小学校

平成22年度卒業

金野 永

私には「有賀小学校」での思い出が数えきれないほどあります。

私は、毎日学校に行くのが楽しみでした。

クラスは一つしかなく、人数も少なかったけれど、学年に関係なくみんな仲良しです。その仲の良さは「縦割り活動」があったからだと思います。縦割り活動では、縦割りリレー、長縄跳びなど、みんなで記録をのぼそうと協力しました。全校児童の仲が良いのは、有賀小学校の良いところだと思っています。

また、地域の方々との交流が多いのも良いところの一つだと思います。「あいさつ運動」や「一人暮らしのお年寄りへのカレンダー配り」などの活動をしてきました。

あいさつ運動では、朝に校門前や交差点などで、地域の皆さんとあいさつをしました。

カレンダー配りでは、全校児童で作ったカレンダーを、毎年12月に各地区に分かれて、一人暮らしのお年寄りの家に届けに行きました。直接手渡し喜んでいただけるのは、私たちにとってもうれしいことでした。

他にも、毎年「合同運動会」では、地域の方々と一緒に競技をして楽しみました。

有賀小学校には、他にも良いところがたくさんあるのに、閉校してしまうのはさみしいです。しかし、有賀小学校が閉校して他の小学校と統合しても、有賀小学校の良いところはずっと残して欲しいと思います。



総合的な学習の時間発表会 (鶏舞)



そば打ち体験



花山合宿



運動会

児童会のめあての前で募金活動



1・2年生遠足



編集後記

閉校記念誌部会部長

三浦 健

平成24年春、栗原市立学校再編計画により有賀小学校閉校記念事業実行委員会が組織され、以来私達は閉校記念誌の編集に手探り状態で取り組んで参りました。この記念誌は、さきに刊行されました『100周年記念誌・百年のあゆみ』と『浜井場分校閉校記念誌・御賀の学び舎』を踏襲し、継続性を持たせ、おもに100周年以降の思い出を重点に編集させていただきました。

改めて、有賀小学校を支えて下さる皆様から、玉稿並びに貴重な写真・資料などを提供していただきました事に、心よりお礼と感謝を申し上げます。又、協力いただいた、委員の皆さんと事務局(教職員)皆様のご労苦に深く感謝申し上げます。

刊行の運びとなった『閉校記念誌・有賀』は、慌ただしくも時間が足りないかな完成度は充分とは言えませんが・・・この点、ご理解とご了承賜れば誠に幸いです。

そして、「学校なき有賀地区が持続可能な『有賀の里』として、存続いたしますよう。又、有賀小学校が皆様の『心のふるさと』として、いつまでも在り続けますよう・・・』そう願する次第です。

| | |
|--------|-------|
| 実行委員長 | 近藤 宗志 |
| 副実行委員長 | 菅原 久樹 |
| 副実行委員長 | 多田 吉男 |

| | |
|----|-------|
| 顧問 | 熊谷 磯夫 |
| | 菅原 博 |
| | 小野寺廣也 |
| | 高橋 義雄 |
| | 千葉 毅 |

参 与 遊佐 典義

| | |
|-----|-------------------------|
| 事務局 | 有賀小学校 |
| 会 計 | 有賀地区コミュニティ事務局長 有賀小学校 |

閉校記念誌部会

| | |
|------|---|
| 部 長 | 三浦 健 |
| 部会委員 | 有賀小学校父母教師会文化厚生部 有賀地区コミュニティ 有賀小学校教職員 |

閉校記念碑部会

| | |
|------|---|
| 部 長 | 鈴木 正男 |
| 部会委員 | 有賀小学校父母教師会本部役員 有賀地区コミュニティ 有賀小学校区各行政区長 有賀小学校教職員 |

閉校記念式典部会

| | |
|------|--|
| 部 長 | 佐藤 豊 |
| 部会委員 | 有賀小学校父母教師会地区会長 有賀地区コミュニティ 有賀小学校教職員 |



栗原市立有賀小学校閉校・有賀幼稚園閉園記念誌

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 発 刊 | 平成25年3月 |
| 発 行 | 栗原市教育委員会 |
| 企画・編集 | 栗原市立有賀小学校閉校記念事業実行委員会 栗原市立有賀小学校 |
| 題 字 | 鈴木恵美子氏 |



